

成果の説明書

(氏名)	中村 匡克	(学部)	地域政策学部
1 重要事項			
(1) 研究	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、対面での活動が制限され、2018年度から取り組んできた経済実験の実施およびそれによるデータ収集ができていない。同研究に関するこれまでの成果についてはディスカッションペーパーに速報値をまとめてあるが、一旦、これまでの成果の中からインプリケーションを見つけ、論文として公表できるよう執筆活動を進めている。</p>		
(2) 教育	<p>新型コロナウイルス感染症対策をとるなか、本学では対面授業が実施された。今日の教育活動においては、教員から学生への一方通行型学習ではなく、教員学生相互の議論を通じた双方向型学習が求められていることから、2020年度に作成した講義動画を予習復習に活用し、授業では議論を中心とすることとした。学生の反応は、議論をしたり学生に意見を求めたりする授業は少ないらしく、新鮮だったとの回答を得ている。ただし、事前の予習復習の徹底は難しく、今後の課題となっている。</p>		
(3) 学内業務	<p>地域政策学会（学内学会）の会長長として、学会の事業の見直しと財務立て直しを行うとともに、学会誌の発行（1～4号）、学術文化講演会の開催（2回）、情報誌『APPROACH』の編集発行に取り組んだ。</p>		
(4) 社会貢献	<p>計画行政学会理事、経済政策学会関東部会理事としての仕事に取り組んだ。また、群馬県大規模小売店舗立地審議会委員、吉岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会委員長としての仕事に取り組んだ。</p>		
2 その他の事項	特になし		
3 次年度以降の計画・抱負	<p>研究活動においては、既実施の経済実験に関連する成果をあげられるようにしたい。教育活動においては双方向型学習の取り組みを進められるよう自身のノウハウを高めた。地域政策学会については、昨今の財務状況を踏まえ事業内容の見直し等を実施する一方、費用をかけず本来学会が取り組むべき事業の発展を目指すつもりである。</p>		